

広島都市学園大学保護者の会
会報

こころ

【「こころ」の由来：広島都市学園大学の理念である「心技一体」の 1 文字からつけています。】

第 4 号

発行 広島都市学園大学 保護者の会

発行先 〒 734-0014

広島市南区宇品西五丁目 13 番 18 号

TEL 082-250-1133

FAX 082-250-1134



遊びコーナー

リハビリテーション学科

ミサンガ作り

キックターゲット



(入場門)



都市学園大学コーナー
看護学科 看護体験



本年度三回目を迎えた大学祭が、地域との合同イベント「第三回宇品かがやきフェスティバル」として、十一月十六日（日）に大学敷地内で盛大に開催されました。今回はオープニング餅つきもあり過去二回の経験を活かし延べ三千三百人の参加があり、夕方までにぎやかに行われました。地域と共同という特異な大学祭ですが、地域との交流を深め、宇品西地区の住人として完全に溶け込んだ姿で、フェスティバルの副題「ふれあいとおもてなしの心で 美しい宇品」のとおり、地域（宇品）との連携事業が確立された感を抱くことができました。

地域の大きなイベントとして、宇品西地区社会福祉協議会、広島都市学園大学、宇品公民館、宇品西行政区公衆衛生推進協議会、宇品学区子ども会育成協議会、宇品西地区老人クラブ連合会、宇品西地区体育協議会、元気工房やる気まんまん、宇品おやじの会、ゆめタウンみゆき店などの団体で構成され、「南区の魅力と活力向上推進事業補助金交付事業」として第一回から広島市からの補助金も受けて実施されています。

一月十七日（土）には市民交流プラザで補助金事業の成果発表会があり、実行委員の学生も参加・発表し、実績をひろく市民の皆さんへアピールすることができたようです。

当日は、大学祭企画のイベントのほか、地域企画のイベントも数多く催されました。これら地域のイベントの一部の模様（写真）を二面に掲載しております。

（第三回宇品かがやきフェスティバル・大学祭）

第三回 大学祭実施

健康科学部看護学科四年次生は、「学生各々が研究テーマを明確にし、論文作成・研究発表までの連の研究過程を通して、研究の科学的アプローチを理解し、研究的態度を養う。」ことを目的とする看護研究に四月から取り組み、その結果をまとめ、十月十一日(土)に発表会が行われました。

また、その成果は、本年一月に「看護研究抄録集」として大学でとりまとめられました。その抄録集の発刊に際し学科長のことばが寄せられていますので、その内容を掲載いたします。

看護研究抄録集 発刊によせて

看護学科長 山本 カヨ子

第三期生の皆さんは、四月から看護研究(卒業研究)に取り組み、その成果をまとめてきました。テーマの絞り込みから研究計画書の作成まで様々な迷いや他教科との同時進行等もあり、思うようにはかどらない日々もありました。

指導教員からは、かなりのんびり屋さんが多いように聞いておりましたが、最終段階では自己の能力を最大限發揮し、論文の仕上げ・研究発表会と見事にやり遂げました。皆さん目標に向かって主体

的な判断をしたり、新しい事象に出会った時の対応能力が求められます。看護研究をするということは、そのような場面に遭遇した時、問題解決を図る思考スキルや態度を養い、専門職として成長する過程を学修することです。

本学は、看護系の研究指導を担う教員の質・量ともに充実してきました。皆さんは看護研究のみに留まらず、看護の尊い使命と誇りを学ぶこともできました。

更に学んで欲しいことは、今までの学修はカリキュラムに即して、資格取得の爲に組み込まれた科目であり、看護研究の第一歩でした。これからは、看護研究を継続し、看護実践場面において、この経験が十分發揮できるよう研鑽を重ねて頂ければ幸いです。

リハビリテーション学科の「卒業研究」の準備が始まる

一方、リハビリテーション学科では、この四月から一期生が三年深く専門の学芸を研究し、専門職として高い資質を身につけた看護職を育成しております。まさに四年次生の看護研究は、学術の中心

としてひろく知識・技術を授け看護における真理の探究と科学的論証を試み、因果関係を探り出す実



第二二期生の【看護研究発表会】実施

健康科学部看護学科

健康科学部看護学科四年次生は、「学生各々が研究テーマを明確にし、論文作成・研究発表までの連の研究過程を通して、研究の科学的アプローチを理解し、研究的態度を養う。」ことを目的とする看護研究に四月から取り組み、その結果をまとめ、十月十一日(土)に発表会が行われました。

また、その成果は、本年一月に「看護研究抄録集」として大学でとりまとめられました。その抄録集の発刊に際し学科長のことばが寄せられていますので、その内容を掲載いたします。

字品かがやきフェスティバルの
地域イベントの一部

防災情報コーナー 地震体験車



遊びコーナー (子ども会育成協議会)



展示コーナー

第37代横綱 安芸ノ海 宇品出身 (地域起こし)
等身大タペストリー (協力: 宇品公民館)



昨年に続き 「動物慰靈祭」が行われる

リハビリテーション学科

リハビリテーション学科では、生理学実習において動物(ウシガエル)を用いて授業が行われていますが、学習のため動物をと殺しました。皆さんは看護研究のみに留まらず、看護の尊い使命と誇りを学ぶこともできました。

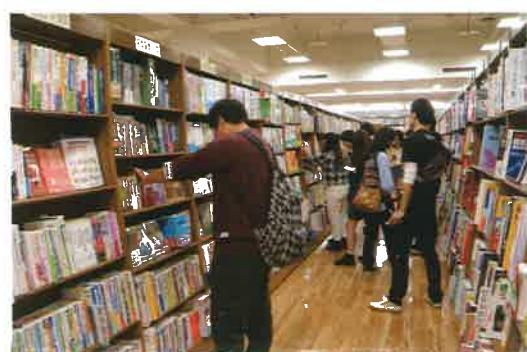
更に学んで欲しいことは、今までの学修はカリキュラムに即して、資格取得の爲に組み込まれた科目であり、看護研究の第一歩でした。これからは、看護研究を継続し、看護実践場面において、この経験が十分發揮できるよう研鑽を重ねて頂ければ幸いです。

当日は、学長及び学科長の先生方が、現在、多くの動物の尊い命の代償によって、医学の進歩が享受されており、学生は、しっかりとそのことをここに留め、真摯に学問に励んでいただきたい旨お話をありました。

卒業研究を、(1)これまで学んだ知識を集大成し、ひとつのテーマを取り組む。(2)問題の発見→解決方法を見出す→解決のスキル・方法を学ぶ。(3)研究成果をプレゼンテーションし、発表のスキルを学ぶ。と捉え、研究に取り組む形式

一方、リハビリテーション学科では、この四月から一期生が三年深く専門の学芸を研究し、専門職として高い資質を身につけた看護職を育成しております。まさに四年次生となるため、卒業研究は助走が必要なことから、カリキュラムが四年前期ですが、三年後期から始まります。卒業研究を、(1)これまで学んだ知識を集大成し、ひとつのテーマを取り組む。(2)問題の発見→解決方法を見出す→解決のスキル・方法を学ぶ。(3)研究成果をプレゼンテーションし、発表のスキルを学ぶ。と捉え、研究に取り組む形式

では、この四月から一期生が三年深く専門の学芸を研究し、専門職として高い資質を身につけた看護職を育成しております。まさに四年次生となるため、卒業研究は助走が必要なことから、カリキュラムが四年前期ですが、三年後期から始まります。卒業研究を、(1)これまで学んだ知識を集大成し、ひとつのテーマを取り組む。(2)問題の発見→解決方法を見出す→解決のスキル・方法を学ぶ。(3)研究成果をプレゼンテーションし、発表のスキルを学ぶ。と捉え、研究に取り組む形式



ブックハンティングとは
ブックハンティングとは、学生が大型書店に出向き、図書館に所蔵して欲しい本を直接選ぶというイベントで、多くの大学図書館で行われています。

大学では、参加学生へのアンケートが行われ、その結果の一部を紹介いたします。

このブックハンティングは、保護者の会支援という趣旨を活かし、「買いたい本があるが高額で手が出せない」「図書館に自分が読みたい本がない」等の学生の希望をかなえるため、この選書方法が行われたものです。

当日は、学生十六名が参加し、保護者の会の役員も二名同行して、MARUZEN 広島店で行われました。

大学では、参加学生へのアンケートが行われ、その結果の一部を紹介いたします。

大変良かった—十三名
良かった—三名
次回があれば参加してみたいですか

思う—全員
(記述されていた感想等)
・実習に使える本が探せた。
・自分が興味のある本を選ぶことができ、また、自分が何が好きなのかも客観的にみることがで

かかった。
・自分の持っている本を他の人にも読んで欲しかったので、選べて良かった。
・自分の気になる本、図書館に入れて欲しい本を自分の目で見て、内容を確認できたので良

かった。
・図書館を利用した際に詳しい資料又は最新のものでなかったから、自分で選ぶことができて良

かった。
・選定された本のうち、特に高価で学生が手が出せないものをピックアップしましたので、次面に掲載します。

『第一回』
「なぜ? どうして? 子育てで困っていますか?」
子ども教育学科 児嶋 芳郎先生

最近「発達障害」という言葉を耳にする機会が多くなっています。「それってどういうもの?」「どんな困難があるの?」など、疑問に思つておられる方も多いのではないかでしょうか。思ひもよらない子どもの行動に、すぐに障害を疑うのではなく、子どもや障害そのものをよく理解しましよう。私は障害児教育を研究しています。今回は発達障害の基礎知識とともに、子育てなどの留意点についてお話をさせていただきます。

《第一回》

「あつ! 大変!」こんな時どうする?」

看護学科 今村 美幸先生

ブックハンティングで図書を購入

宇品力レッジ(公民館講座)へ 大学から出講

第三回
「オススメ! 小学校低学年からの料理作り」

前号(第三号)でお知らせましたが、十月十一日(土)に学生によるブックハンティングが行われ、宇品図書館及び西風図書館合わせて百八十六冊の本が選ばれました。選定された図書は全て納入され、各図書館に配架されましたので、ハンティングの模様や配架の状況など写真を掲載します。

このブックハンティングは、保護者の会支援という趣旨を活かし、「買いたい本があるが高額で手が出せない」「図書館に自分が読みたい本がない」等の学生の希望をかなえるため、この選書方法が行われたものです。

・参加していかがでしたか
・参加していかがでしたか
・大変良かった—十三名
良かった—三名
次回があれば参加してみたいですか

思う—全員
(記述されていた感想等)
・実習に使える本が探せた。
・自分が興味のある本を選ぶことができ、また、自分が何が好きなのかも客観的にみることができた。

以上
・自分の持っている本を他の人にも読んで欲しかったので、選べて良かった。
・自分の気に入る本、図書館に入れて欲しい本を自分の目で見て、内容を確認できたので良

かった。
・選定された本のうち、特に高価で学生が手が出せないものをピックアップしましたので、次面に掲載します。

この講座は、宇品キャンパスにある2学科(看護学科と子ども教育学科)の教員から、保護者の皆様に、子どもの成長、子どもが成長する過程で遭遇するさまざまな出来事への対応の仕方、子どもへの関わり方について両学科連携してのお話でした。

講座は、全三回で、次のように構成のうえ実施されました。

力レッジとして十二月と一月に開講されました。

もし、あなたが料理を単なる「グッキング」と捉えているとしたら、もつたない! 子どもと一緒に食材を揃え、切り、何を先に煮て:と段取りを考えながら料理を楽しむことから、大切な「力」を養うことができるのです。その「力」とは? 一緒に料理をしながら、お話ししたいと思います。

子ども教育学科 富田 道子先生

薬物・危険ドラッグ講習会実施

一月三十日(金)に、看護学科

一年次生を対象として「薬物・危険ドラッグ講習会」が実施されました。

広島県警の刑事課暴力薬物係のご担当の方が講演され、近年急増している薬物乱用による弊害等についての説明とともに、薬物乱用のない社会を目指して特に次のことをについて注意喚起がありました。

【ノードラッグ】

最近、店舗やインターネット上で、「合法ハーブ」等と称する商品が販売されており、こうした商品を使用した人が、意識障害、おうと、けいれん、呼吸困難等を起こして、死亡したり、重体に陥る事件が多発しています。

【ノードラッグ】

「運び屋」への誘いに乗らない薬物犯罪組織等は、知人の紹介、元同僚、学生時代の先輩後輩等、あらゆる人間関係を利用して「運び屋」になるように誘つてきます。違法な薬物には絶対に関わらない

薬物「運び屋」は、重大な犯罪です。日本でも外国でも重い罪です。日本でも重い罪です。厳しく処罰されます。

・不用意に他人から荷物を預からず
他人から預かった荷物でも、自

以上的のような注意喚起は、家族でも考える必要があるので、絶対に手を出してはいけません。

